

2019 年度活動報告 交換授業：レギュラーゼミ（文法・作文）

中野 陽（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

初級後半レベルの学習者を対象で、クラス人数は3名であった。1 週あたりの授業時間はこの文法・作文クラスの2コマ（90 分）に加え、漢字・会話クラスが1 コマ、計3 コマであった。教材は、『大地2¹』を文法学習に使用し、作文には教師作成テキスト（身近なことをテーマに、各課の文型を使用して書かれたモデル作文）を使用した。

このクラスの目標は、①初級後半の文型とことばを学び、それを使って日本語を読んだり書いたりすることができる。②自分のことについていろいろなテーマで自己表現（作文）ができる。の2つであった。

2. 授業内容

全27 回であった。基本的に2 コマで1 課という進度で行ったが、各文法の使用文脈を把握しやすいように、また、学習動機を高めるため、授業はつねにモデル作文の読解を冒頭に行った上で、そこに出てくる各課の文型の導入、練習という流れで行った。教室外でのインプットが多い学習者の集まりであったため、類義表現、関連表現（くだけた表現も含む）も発展的に説明、練習することもあった。

各課の学習後には文法問題とモデル作文のブランクを埋める問題で構成されたクイズを実施した。

3. 成果と今後の課題

学生からのアンケートでは、5 段階中5 点が2 名、3 点が1 名であった。自由記述回答で「類義表現との使い分けを明確に教えてもらえて満足」「楽しみながら学習できた」といった意見がでたことから、基本的な授業方針は学習者に合っていたと思われるが、クイズに関して、「モデル作文を暗記するのが大変だった」というもの、また1 名の学習者からは「全体的にレベルが易しすぎた」というコメントがあった。前者については「モデル作文を暗記することで文型の定着がはかれる」という意図のもとで出題していたが、より高い学習効果が得られるよう、出題方法を見直す余地がある。後者については、自己評価の高い学習者のいるクラスの効果的な運営方法を検討することが今後の課題であると考えている。

¹ スリーエーネットワーク『大地2』のメインテキスト、基礎問題集、文法説明と翻訳。